

教育研究業績書

令和 7 年 3 月 31 日

氏名 川崎 恵理

研究分野	研究内容のキーワード
幼小接続	幼小接続、架け橋期、遊びの中の学び

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 (1) 教育課程総論 (2) 教育実習Ⅱ (3) 保育内容総論	令和 5 年度前期 令和 5 年度通年 令和 5 年度後期	幼児教育の基本や保育の計画について、教科書である幼稚園教育要領等を理解しやすいようにスライド化したり、穴埋め形式のワークシートを作成したり、毎回の授業にグループワークを組み込んだりして、学生が主体的に授業に参加できるようにしている。 映像で子どもの発達を視聴し、共通理解を図ったり、園生活の具体的な流れを説明した後、実際に園に出かけたりと、実習の具体的なイメージがもてるように実践を交えた授業を行っている。 実習で実際に行った指導の反省・課題を生かした指導案を作成し、模擬保育を行うという実践を交えた授業を行っている。また、教育課程総論で学んだことと、実際の実習とが結びつくよう、現場での具体的な事例も用いながら、スライド、ワークシート、グループワークを活用した授業を行っている。
2. 作成した教科書、教材 1) 『幼児教育から小学校教育への接続カリキュラム』 学びをつなぐ希望のバトンカリキュラムー学びに向かう力を発揮するー	平成 31 年 3 月	平成 29 年 3 月に告示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の改訂（改定）により、「幼児期において育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。また、小学校教育要領も改訂され、小学校に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫、資質・能力を踏まえた教育活動の実施が求められている。これらを踏まえ、従来のカリキュラム（5 歳児から 1 年生）に 3・4 歳児の部分を追加し、子どもの育ちのプロセスが見えるものとして、改訂版を作成した。
2) 実習ガイドブック	令和 6 年 6 月	これまで使われていた「実習要項」を学生の実態に合わせて、他大学の授業で活用されているものを参考にして「実習ガイドブック」として作成し直した。5 回の実習における共通部分や実習前、実習中、実習後にすべきことが理解しやすいように編成した。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 幼稚園教育の実践及び教育課程編成	平成 8 年 4 月～平成 16 年 3 月	担任教諭として、3 歳児、4 歳児、5 歳児クラスの保育を実践するとともに、研究主任として教育課程編成などの研究を推進し、公開保育や研究発表などを行った。

2) 教育実習生の指導	平成 8 年 4 月～ 平成 16 年 3 月	毎年福井大学から受け入れた教育実習生の指導に当たった。
3) 市町幼児教育アドバイザー・園内リーダー養成	平成 28 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	福井県幼児教育支援センター主任として、「市町幼児教育アドバイザー・園内リーダー養成研修」を担当し、幼児教育の水準の維持向上を図るため、公私園種を越えた研修を行った。さらに、各市町でも担当課の協力を得ながら、同様の研修が開催されるよう働きかけた。
4) 市町幼児教育アドバイザーフォローアップ研修 園内リーダーフォローアップ研修	平成 30 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	県の認定を受けた市町幼児教育アドバイザーが、各市町で研修等を行う際に中心となって活動できるようにフォローアップを行う研修を立ち上げた。また、同じく認定を受けた園内リーダーが園で中心となって研修を行うための支援体制づくりができるような研修を立ち上げた。
5) 各市町における講師	平成 28 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	各市町で行われる研修会で、講師として「遊びの中の学び」を発信し、演習を通して園内外に「遊びの中の学び」を語る保育者の育成を目指した。 幼稚園教育要領改訂の際には、各市町に出向いて、公私園種を越えた説明会を開催し、幼児教育の育成すべき資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を中心に説明した。
6) 仁愛女子短期大学教員免許更新講習ゲストスピーカー	平成 29 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	仁愛女子短期大学教員免許更新講習「幼稚園教育要領改訂の動向及び法令改正及び国の審議会の状況等」において、ゲストスピーカーとして「幼稚園教育要領の改訂についての理解②」及び「園内外における連携協力についての理解」の講習を行った。
7) 仁愛女子短期大学幼児教育学科「保育・教職実践演習（幼稚園）」ゲストスピーカー	平成 28 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	仁愛女子短期大学幼児教育学科「保育・教育実践演習（幼稚園）」の授業において、ゲストスピーカーとして、「福井県における保幼小連携について」講義を行った。
8) 越前町 幼児教育と小学校教育の接続推進会議	令和 2 年 4 月～ 令和 5 年 3 月	越前町において、県で行ってきたことを基に、園と小学校をつなぐ会議を設け、接続の推進を図った。
5. その他		
職務上の実績に関する事項		
事 項	年月日	概 要
1. 資格、免許 1) 幼稚園教諭二種免許状 2) 小学校教諭一種免許状 3) 中学校教諭一種免許状（理科） 4) 高等学校教諭一種免許状（理科） 5) 小学校教諭専修免許状 6) 中学校教諭専修免許状（理科） 7) 高等学校教諭専修免許状（理科）	平成 5 年 3 月 平成 5 年 3 月 平成 5 年 3 月 平成 5 年 3 月 平成 15 年 3 月 平成 15 年 3 月 平成 15 年 3 月	登録番号福井県教育委員会平 04 幼 2 第 0138 号 登録番号福井県教育委員会平 04 小 1 種第 0039 号 登録番号福井県教育委員会平 04 中 1 種第 0082 号 登録番号福井県教育委員会平 04 高 1 種第 0132 号 登録番号福井県教育委員会平 14 小専修第 0014 号 登録番号福井県教育委員会平 14 中専修第 0015 号 登録番号福井県教育委員会平 14 高専修第 0031 号
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 福井大学教育地域科学部附属幼稚園教諭	平成 8 年 4 月～ 平成 16 年 3 月	担任教諭として、3 歳児、4 歳児、5 歳児クラスの保育を実践するとともに、毎年福井大学から受け入れた教育実習生の指導に当たった。また、研究主任として教育課程編成などの研究を推進し、公開保育や研究発表などを行った。

<p>2) 福井県教育庁義務教育課幼児教育支援グループ指導主事（福井県幼児教育支援センター主任）</p> <p>3) 越前町教育委員会指導主事</p>	<p>平成 28 年 4 月～平成 31 年 3 月</p> <p>令和 2 年 4 月～令和 5 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県幼児教育支援センター主任として、「市町幼児教育アドバイザー・園内リーダー養成研修」を担当し、幼児教育の水準の維持向上を図るため、公私園種を越えた研修を行った。さらに、各市町でも担当課の協力を得ながら、同様の研修が開催されるよう働きかけた。 ・県の認定を受けた市町幼児教育アドバイザーが、各市町で研修等を行う際に中心となって活動できるようにフォローアップを行う研修を立ち上げた。また、同じく認定を受けた園内リーダーが園で中心となって研修を行うための支援体制づくりができるような研修を立ち上げた。 ・各市町で行われる研修会で、講師として「遊びの中の学び」を発信し、演習を通して園内外に「遊びの中の学び」を語る保育者の育成を目指した。 <p>幼稚園教育要領改訂の際には、各市町に出向いて、公私園種を越えた説明会を開催し、幼児教育の育成すべき資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を中心に説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 3 月に告示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の改訂（改定）により、幼稚園・保育所・認定こども園が幼児教育を行う施設として明確に位置付けられるとともに、3 歳以上の幼児教育に関する記載が共通化され、「幼児期において育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。また、小学校教育要領も改訂され、小学校に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫、資質・能力を踏まえた教育活動の実施が求められている。これらを踏まえ、従来のカリキュラム（5 歳児から 1 年生）に 3・4 歳児の部分を追加し、子どもの育ちのプロセスが見えるものとして、改訂版を作成した。 ・仁愛女子短期大学教員免許更新講習「幼稚園教育要領改訂の動向及び法令改正及び国の審議会の状況等」において、ゲストスピーカーとして「幼稚園教育要領の改訂についての理解②」及び「園内外における連携協力についての理解」の講習を行った。 ・仁愛女子短期大学幼児教育学科「保育・教育実践演習（幼稚園）」の授業において、ゲストスピーカーとして、「福井県における保幼小連携について」講義を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・町内の園と小学校の接続を推進するため、園の担当課の協力を仰ぎ、これまで開催されることのなかった接続推進会議を立ち上げ、年に 3 回の開催を実施した。お互いのカリキュラムを理解し、架け橋期と呼ばれる 2 年間について話し合う場となった。 ・4 歳児検診（福祉部局開催）に出向き、就学に関わる保護者の相談に応じた。
---	---	---

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>（著書）</p> <p>『幼児教育から小学校教育への接続カリキュラム』</p> <p>学びをつなぐ希望のバトンカリキュラムー学びに向かう力を発揮するー</p>	共著	平成 31 年 3 月	福井県教育庁義務教育課幼児教育支援グループ（福井県幼児教育支援センター）	平成 29 年 3 月に告示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の改訂（改定）により、幼稚園・保育所・認定こども園が幼児教育を行う施設として明確に位置付けられるとともに、3 歳以上の幼児教育に関する記載が共通化され、

				「幼児期において育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。また、小学校教育要領も改訂され、小学校に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫、資質・能力を踏まえた教育活動の実施が求められている。これらを踏まえ、従来のカリキュラム（5歳児から1年生）に3・4歳児の部分を追加し、子どもの育ちのプロセスが見えるものとして、改訂版を作成した。
(学術論文)				
架け橋期における教育を模索する	単著	令和7年3月	『仁愛女子短期大学研究紀要』第57号	幼小接続に関しては、これまでも様々な取り組みや考えが論じられている。幼児教育と小学校教育の両方の視点から5歳児と1年生の2年間「架け橋期」について考察する。